

「復興農学会」事務局会議 議事録

文責 新田 洋司 (福島大学)

日時 2020年5月25日(月)17時00分～18時00分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 大川 泰一郎(東京農工大学)、溝口 勝(東京大学)、内田 修司(福島高専)、青木 英二(同)、伊藤 央奈(郡山女子大学)、黒瀧 秀久(東京農業大学)、菅原 優(同)、中野 和典(日本大学)、新田 洋司(福島大学)、石井 秀樹(同)、横山 正(同)、丹野 史典(同)、松島 武司(福島イノベ機構)

欠席等連絡者 川妻 伸二(福島高専)、鈴木 茂和(同)、登尾 浩助(明治大学)、岩城 一郎(日本大学)
(敬称略)

議事録

1. 「復興農学会」事務局会議「全体会議」(5月23日開催)について(新田・松島)

新田より、5月23日に大川 教授(東京農工大学)主宰で開催された「全体会議」(主会場:富岡町)について、内容、出席者数等について報告があり、お礼の発言があった。

また、松島 コーディネーターより資料にもとづいて、同会議で得られた情報や今後の課題等について以下のとおり紹介があった。

(a) 得られた情報等

- ・ 農業機械・設備等は自治体をまたいだ利活用が必要で求められるのではないかと。
- ・ 富岡町での復興活動は他の地域にも活用できる点を各大学が再認識した。
- ・ イノシシのほかにもネズミ等による農作物への被害が富岡町でも発生している。
- ・ 富岡町で営農を再開した農家は7件であり、なかなか進んでいない。
- ・ 水田の除草ロボット(アイガモロボット)等は今後、費用対効果も検証する必要があるのではないかと。
- ・ 水田に除染後、山土を客土し、肥沃度は低下したが、堆肥等を投入するために、今後、耕畜連携を進めることが必要ではないかと。

(b) 今後の課題等

- ・ 地域を越えた連携には各大学が推進役となる必要があるのではないかと。
- ・ 福島大学の責任が大きく役割が期待される。

2. 福島大学主催「シンポジウム」について(新田)

新田より、福島大学主催の「シンポジウム」を6月に開催予定であること、福島大学学長、復興知事業責任者の生源寺 食農学類長が出席予定であること等が報告された。また、目的は、復興農学会の正式立ち上げであり、会則の決定、シーズ集の決定、テーマ討論を予定していること等が紹介された。

本件について意見交換の結果、①名称を「復興農学会準備会」シンポジウムとし、その中で復興農学会の正式立ち上げをうたった方がよい、②テーマ討論では「復興農学会は何をめざすか?」、「復興農学会に期待すること」等のテーマとし、議論のたたき台が必要、③名称「復興農学会」については、事前に、東北大学大学院研究科 東北復興農学センターに説明と了解が必要、④本事務局会議から復興農学会をとおしたロードマップが必要、⑤復興農学会には農家の方、一般の方にも会員になって参加して欲しい、⑥「全体会議」等の記録を記事とした会誌を準備した方がよい、等の意見がだされた。

また、復興農学会としてはシンポジウムで立ち上げを決めたのち、2021年2月に(一社)日本農学会に学協会登録をすることが確認された。

シンポジウムを開催するにあたっては以上の点を含めて検討して準備を進め、とくに②、③、④については福島大学が検討を進めることとなった。また、福島大学学長等の日程を確認し、次回の本事務局会議で開催日等を提案することとなった。

3. その他

(1) 復興農学準備会 Web について

新田より、復興農学準備会 Web に掲載するため、下記を事務局（新田）に送るよう依頼があった。

- ・2018 年度「復興知」事業の成果報告書等
- ・各大学等で作成し閲覧可能なシーズ集の URL
- ・その他

以上

次回

事務局会議 2020 年 6 月 1 日（月）17 時 00 分～18 時 00 分 Zoom による Web 会議